

おもひでぼろぼろ ～コタエは君の心の中にある～

9月に入って朝晩は半袖ではひんやりするくらいで、気団がすっかり入れ替わり、秋の空気に包まれたことが分かる。空は濃い青色から淡い水色に変化して、随分と高くなった。

8月26日に本高の芸術鑑賞教室で、わらび座によるミュージカル「おもひでぼろぼろ」を鑑賞した。27才のタエ子が日常の忙しさの中で、ある時内面の自分に促されて、ふと思立って田舎の山形に向かう。内面の自分は小学校5年生だったタエ子自身だ。田舎の自然や人々とのふれあいの中でタエ子は思い出をたぐり寄せることで過去へと遡る。思い出はこぼれるほどに次から次に湧き上がり、ずっと心に引っかかっていたある苦い思い出—それは阿部君という級友と握手することをためらったという出来事だが—を乗り越えることで新しい地平に進んでいくことができる。転校するとき理科の先生が言った、昨日のことを考え、明日のことを考える、考えるからこそ人間だという言葉がミュージカルを貫く縦糸になっていて、おばあさんの過去や現在、トシオの現在や未来などが横糸となって全体が構成されていく。



「答えは君の心の中にある」—この言葉は本校の小園敦先生の決めぜりふだが、この台詞が「おもひでぼろぼろ」に由来するものかどうかは確認していない。タエ子は小タエ（答え）に促されて過去に遡り、自分の心の中のわだかまりと向き合って、過去に新しい意味を見いだす。コタエはこの決めぜりふのように、心の中にあっただのである。

私には、タエ子が旅した田舎とは、すなわち自分の心の中であるように思われる。心の中では、過去も現在も未来も、時間軸に沿って整然と並んでいるのではなく、渾然一体となって存在している。過去が、ある色彩を帯びることで、現在に新しい色合いが加わる。未来がある形をもつことで、過去がそれまでにあっただ形を変える。

他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えることができるということを、本校の武蔵進路指導主事は何度か話をしてくれた。過去の事実は変更できないし、他人の在り方を変えることはできない。しかし、自分を変えることで未来に影響を及ぼすことはできる。それは、確かな事実である。

「おもひでぼろぼろ」を観て、もしかして過去も変えられるのだ、と考えた。起きてしまった事実はもちろん変えることはできない。しかし、その意味合いを変更することはできる。それは、タエ子が阿部君と握手できなかったという事実は変更できないが、自分の心を遡り、その意味を考え、自分の中の弱さや醜さに気づくことで、それまでの過去の事実が異なった意味をもつこともできるということだ。

それは、また、もしかして、「他人」にも当てはまるのではないか。他人の存在の仕方については変えることはできないが、自分の心の中で「他人」のもつ意味合いを変更することは可能なのではないか。卑近な例で言えば、口うるさい親だとばかり思っていたが、自分のことを心から考えてくれるがゆえの愛情なのだ気づくようなことだ。それは、自分の心の成長、内面の深化によってもたらされる。

過去も他人も自分も未来も、すべてを変えることはできるのだ。心の中のコタエに気づきさえすれば。